

第 1 章

令和5年の福島県経済の概況

第1章 令和5年の福島県経済の概況

1 概要

【総合判断】

令和5年(2023年)の福島県経済は、先行きに不透明感がみられたものの、全体としては緩やかな持ち直しの動きが続いた。

令和5年の福島県の経済を振り返ると、先行きに不透明感がみられるものの、個人消費、生産活動などの指標で緩やかな持ち直しの動きが見られた。

個人消費を見ると、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、専門量販店販売額、乗用車新規登録台数は前年を上回った。

建設需要をみると、業務用建築物着工工事費は前年を上回り、公共工事請負金額及び新設住宅着工戸数は前年を下回った。

生産活動をみると、生産指数は前年を下回り、出荷指数は前年を上回った。

雇用・労働をみると、新規求人倍率や有効求人倍率は前年を下回り、常用雇用指数は前年を上回ったものの、現金給与総額指数、所定外労働時間指数は前年を下回った。

2 個別指標の国と福島県の比較

令和5年の日本経済は、ロシアのウクライナ侵攻や世界的な物価上昇により、国内でも40年ぶりの物価上昇などマクロ経済環境の大きな変化が生じた。5月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことで、景気の自律的な循環を制約してきた要因は解消され、徐々に正常化が進むとともに、春闘では30年ぶりの高い賃上げや企業の高い投資意欲など前向きな動きが見られた。一方、企業の業況や収益の改善が続いているものの、その好調さが、必ずしも十分に賃金や投資に回っておらず、内需は力強さを欠いている。

このような状況を踏まえ、令和5年における個別指標について福島県と全国の前年比を比較することで、福島県の特性を確認する。

業務用建築物着工工事費や消費者物価指数は国の上昇幅よりも県の上昇幅が大きかった。百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、専門量販店販売額、乗用車新規登録台数、常用雇用指数、金融機関預金残高、金融機関貸出残高は、国の上昇幅よりも県の上昇幅が小さく、鉱工業出荷指数は、全国で下降したものの県では上昇した。公共工事請負金額や現金給与総額指数は、全国で上昇していても県では下降しており、鉱工業生産指数は、全国の下降幅よりも県の下降幅が小さく、新設住宅着工戸数や所定外労働時間指数は、全国の下降幅よりも県の下降幅が大きかった。(図1-2-1、表1-2-1)

図1-2-1 令和5年個別指標の前年比レーダーチャート

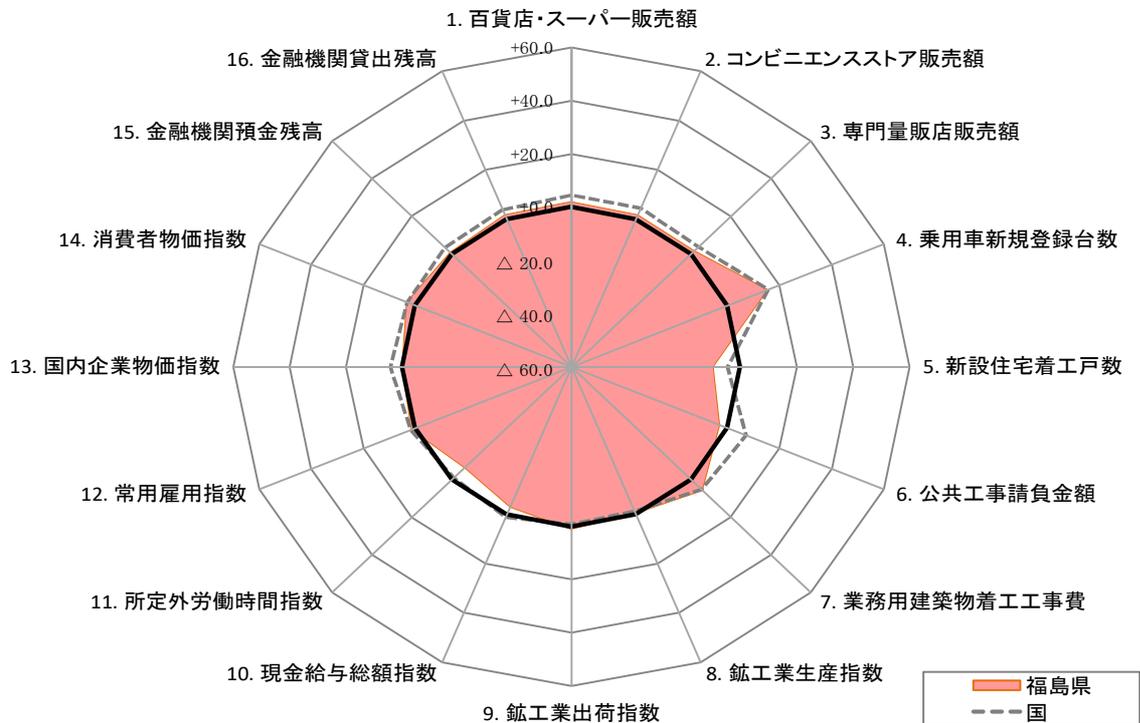


表1-2-1 令和5年個別指標の前年比及び差

個別指標		国 (前年比%)	福島県 (前年比%)	差(県-国) (ポイント)
個人消費	1. 百貨店・スーパー販売額	+4.6	+2.1	△ 2.5
	2. コンビニエンスストア販売額	+4.4	+1.7	△ 2.7
	3. 専門量販店販売額	+3.7	+1.5	△ 2.2
	4. 乗用車新規登録台数	15.7	15.5	△ 0.2
建設需要	5. 新設住宅着工戸数	△ 4.6	△ 9.5	△ 4.9
	6. 公共工事請負金額	+7.1	△ 2.9	△ 10.0
	7. 業務用建築物着工工事費	+5.3	+5.7	+0.5
生産活動	8. 鉱工業生産指数	△ 1.3	△ 0.5	+0.8
	9. 鉱工業出荷指数	△ 0.7	+1.0	+1.7
労働	10. 現金給与総額指数	+1.2	△ 3.0	△ 4.2
	11. 所定外労働時間指数	△ 0.9	△ 6.3	△ 5.4
	12. 常用雇用指数	+1.9	+1.4	△ 0.5
物価	13. 国内企業物価指数	+4.2	—	—
	14. 消費者物価指数	+3.2	+3.3	+0.1
金融	15. 金融機関預金残高	+3.4	+0.8	△ 2.6
	16. 金融機関貸出残高	+3.8	+1.7	△ 2.1

※ 国内企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。
 ※ 令和5年の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみられる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみられる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P.6以降を参照。
 ※ 端数処理のため、差(県-国)の値が一致しないことがあります。

3 福島県経済の四半期別の概要

【個人消費】

百貨店・スーパー販売額(全店舗ベース)は、全期で前年を上回った。

コンビニエンスストア販売額は、全期で前年を上回った。

専門量販店販売額は、第2四半期を除き前年を上回った。

乗用車新規登録台数は、全期で前年を上回った。

【建設需要】

新設住宅着工戸数は、全期で前年を下回った。

公共工事請負金額は、第1四半期、第2四半期は前年を上回ったが、第3四半期、第4四半期は前年を下回った。

業務用建築物着工工事費は、第1四半期、第4四半期は前年を上回ったが、第2四半期、第3四半期は前年を下回った。

【生産活動】

鉱工業生産指数(季節調整済指数)は、第2四半期を除き前年を下回った。

鉱工業出荷指数(季節調整済指数)は、第3四半期を除き前年を下回った。

【労働】

現金給与総額指数は、第3四半期を除き前年を下回った。

所定外労働時間指数は、全期で前年を下回った。

常用雇用指数は、全期で前年を上回った。

【物価】

国内企業物価指数は、全期で前年を上回った。

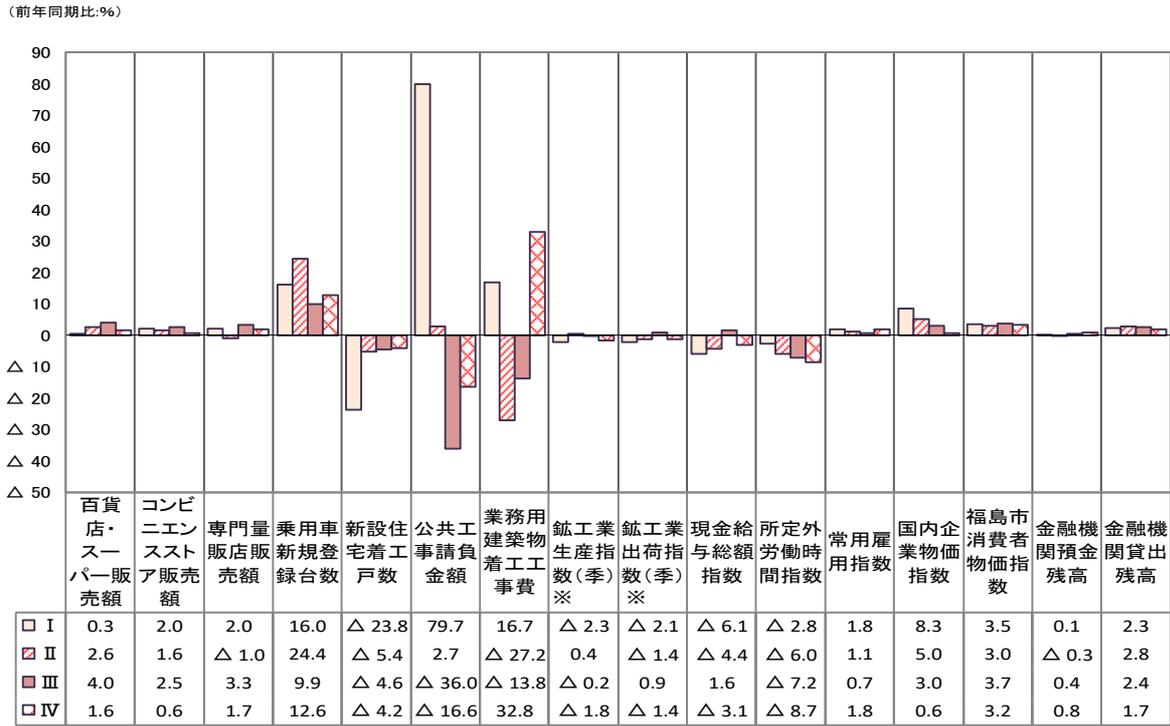
福島市消費者物価指数は、全期で前年を上回った。

【金融】

金融機関預金残高は、第2四半期を除き前年を上回った。

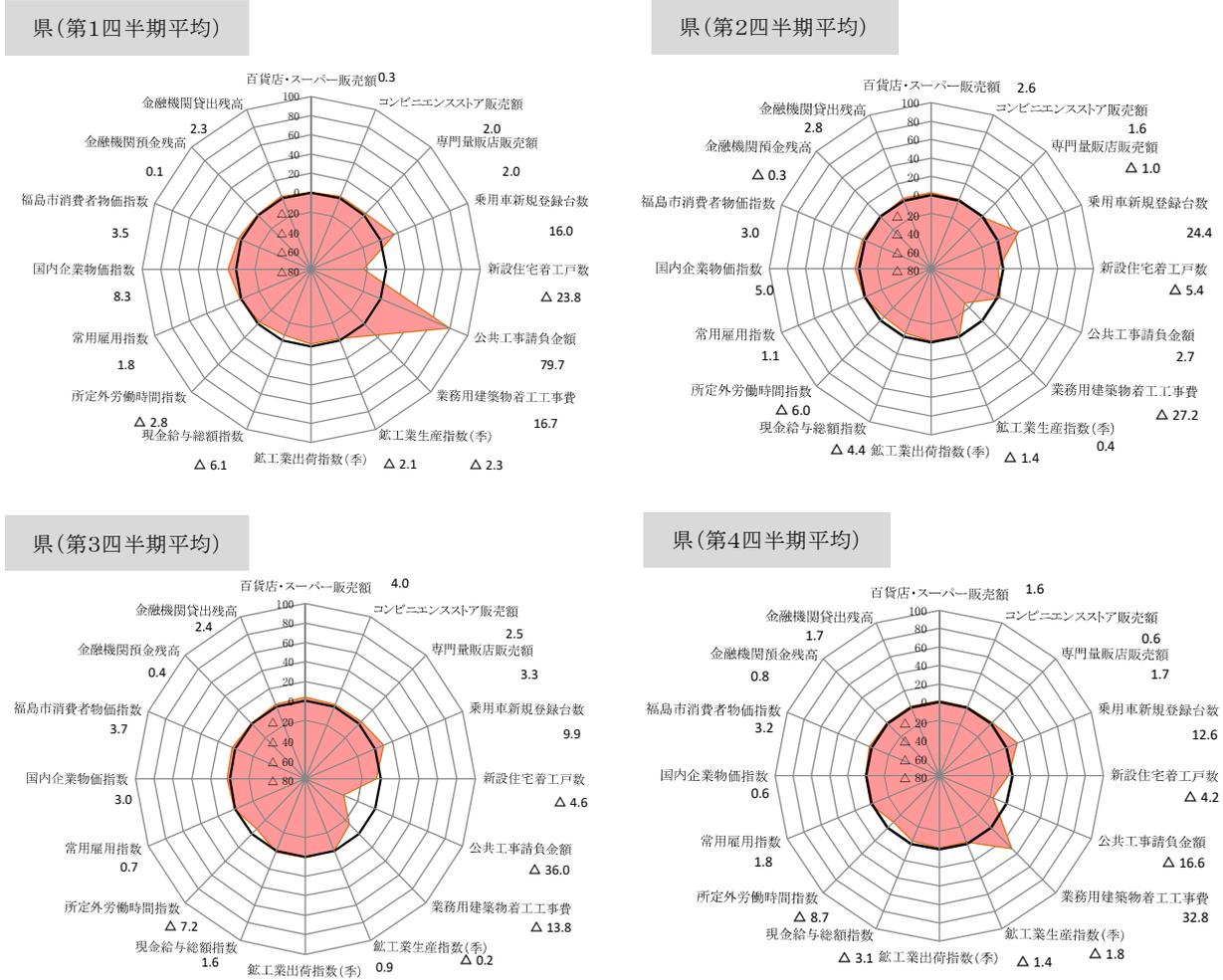
金融機関貸出残高は、全期で前年を上回った。

図1-3-1 主要指標毎の前年同期比の推移



※鉱工業生産指数及び鉱工業出荷指数は前期比。

図1-3-2 主要指標の四半期毎前年同期比のレーダーチャート



4 主要な個別指標の概要

○ 指標名及びグラフのマーカーの色の見方について

- 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は緑字、悪化している指標は赤字、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は緑色(■)、悪化している指標は赤色(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。(「前期」と比較している指標は「鉱工業指数、求人倍率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」)
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

個人消費

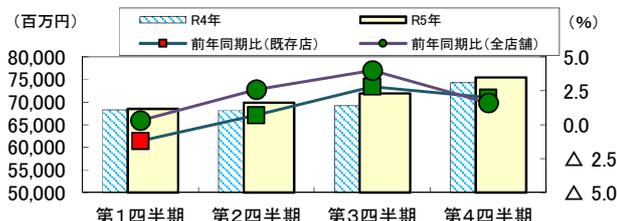


緩やかな持ち直しの動きがみられた。

- (1) **百貨店・スーパー販売額**は全店舗ベースで総額2,858億34百万円、前年比2.1%増となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.14に掲載 】

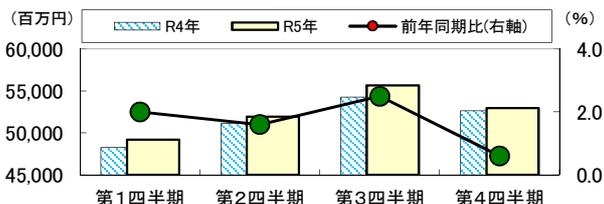
	販売額	(単位:百万円、%)	
		前年同期比 前年比(全店舗)	前年同期比 前年比(既存店)
第1四半期	68,518	0.3	△ 1.2
第2四半期	69,865	2.6	0.7
第3四半期	71,968	4.0	2.8
第4四半期	75,483	1.6	2.0
R5年	285,834	2.1	1.1



- (2) **コンビニエンスストア販売額**は総額約2,097億41百万円、前年比1.7%増となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

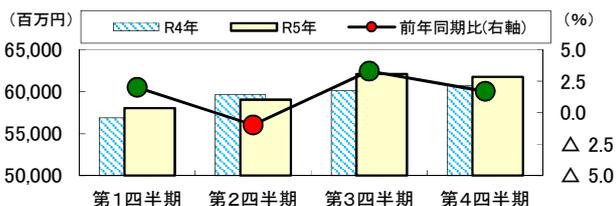
	販売額	(単位:百万円、%)	
		前年同期比 前年比	前年比
第1四半期	49,205		2.0
第2四半期	51,929		1.6
第3四半期	55,648		2.5
第4四半期	52,959		0.6
R5年	209,741		1.7



- (3) **専門量販店販売額**は2,409億41百万円、前年比1.5%増となり、9年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

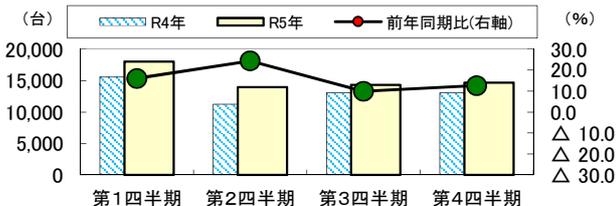
	販売額	(単位:百万円、%)	
		前年同期比 前年比	前年比
第1四半期	58,019		2.0
第2四半期	59,067		△ 1.0
第3四半期	62,107		3.3
第4四半期	61,748		1.7
R5年	240,941		1.5



- (4) **乗用車新規登録台数**は60,987台、前年比15.5%増となり、4年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.18に掲載 】

	登録台数	(単位:台、%)	
		前年同期比 前年比	前年比
第1四半期	18,030		16.0
第2四半期	13,959		24.4
第3四半期	14,324		9.9
第4四半期	14,674		12.6
R5年	60,987		15.5



建設需要

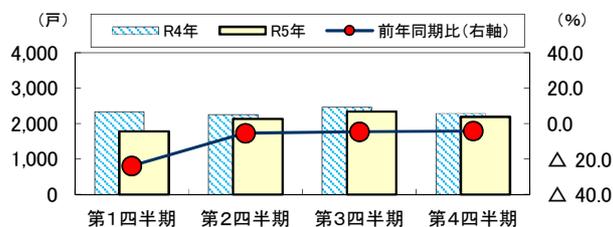
前年からの
変化方向

公共工事は、復興事業の進捗などにより弱い動きが続いたものの、民間需要の一部に持ち直しの動きがみられた。

- (1) **新設住宅着工戸数**は8,444戸、前年比9.5%減となり、7年連続で前年を下回った。

【詳細は P.20に掲載】

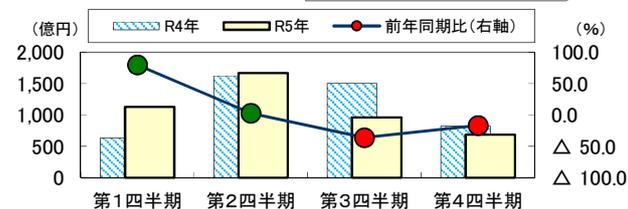
(単位:戸,%)		
	着工戸数	前年同期比 前年比
第1四半期	1,776	△ 23.8
第2四半期	2,135	△ 5.4
第3四半期	2,344	△ 4.6
第4四半期	2,189	△ 4.2
R5年	8,444	△ 9.5



- (2) **公共工事請負金額**は総額約4,440億円、前年比2.9%減となり、3年連続で前年を下回った。

【詳細は P.22に掲載】

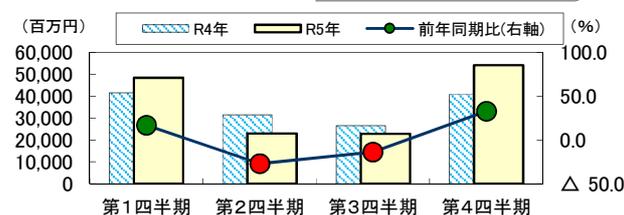
(単位:億円,%)		
	請負金額	前年同期比 前年比
第1四半期	1,129	79.7
第2四半期	1,665	2.7
第3四半期	963	△ 36.0
第4四半期	683	△ 16.6
R5年	4,440	△ 2.9



- (3) **業務用建築物着工工事費**は総額約1,483億49百万円、前年比5.7%増となり、2年連続で前年を上回った。

【詳細は P.24に掲載】

(単位:百万円,%)		
	着工工事費	前年同期比 前年比
第1四半期	48,433	16.7
第2四半期	22,979	△ 27.2
第3四半期	22,797	△ 13.8
第4四半期	54,140	32.8
R5年	148,349	5.7



生産活動

前年からの
変化方向



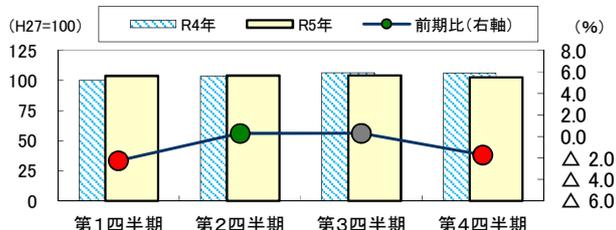
緩やかな持ち直しの動きが続いた。

- (1) **鉱工業生産指数(原指数)**は103.8(R2=100)、前年比0.3%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.26に掲載 】

(単位:R2=100、%)

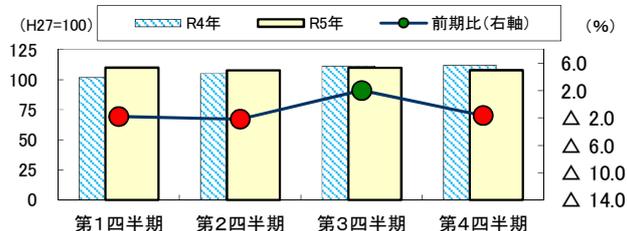
	生産指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	103.8	△ 2.3
第2四半期	104.1	0.3
第3四半期	104.4	0.3
第4四半期	102.6	△ 1.7
R5年	103.8	△ 0.3



- (2) **鉱工業出荷指数(原指数)**は109.0(R2=100)、前年比1.3%増となり、3年連続で前年を上回った。

(単位:R2=100、%)

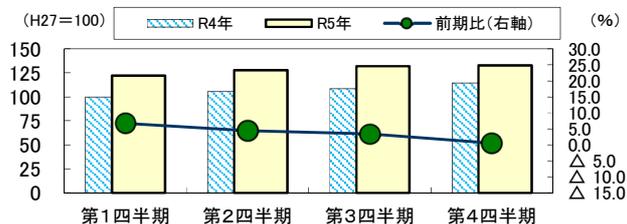
	出荷指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	110.0	△ 1.8
第2四半期	107.6	△ 2.2
第3四半期	109.8	2.0
第4四半期	108.0	△ 1.6
R5年	109.0	1.3



- (3) **鉱工業在庫指数(原指数)**は128.8(R2=100)、前年比20.1%増となり、2年連続で前年を上回った。

(単位:R2=100、%)

	在庫指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	122.3	6.7
第2四半期	127.7	4.4
第3四半期	132.1	3.4
第4四半期	132.8	0.5
R5年	128.8	20.1



雇用・労働

前年からの
変化方向



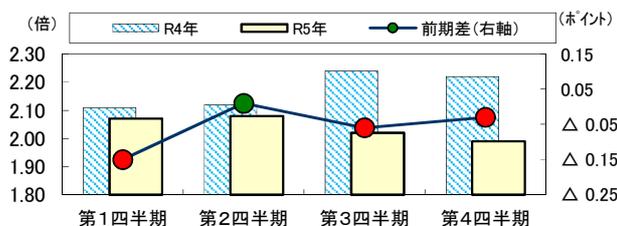
一部に弱い動きがみられた。

- (1) **新規求人倍率(原数値)**は2.03倍、前年差0.13ポイント下降し、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.30に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	2.07	△ 0.15
第2四半期	2.08	0.01
第3四半期	2.02	△ 0.06
第4四半期	1.99	△ 0.03
R5年	2.03	△ 0.13

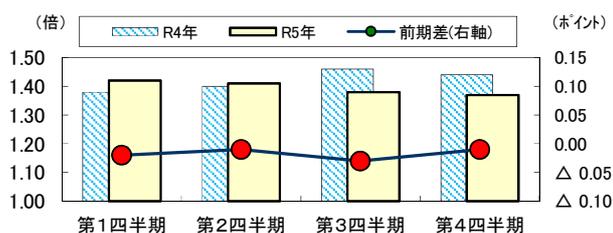


- (2) **有効求人倍率(原数値)**は1.39倍、前年差0.03ポイント下降し、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.32に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前年差 前年比
第1四半期	1.42	△ 0.02
第2四半期	1.41	△ 0.01
第3四半期	1.38	△ 0.03
第4四半期	1.37	△ 0.01
R5年	1.39	△ 0.03

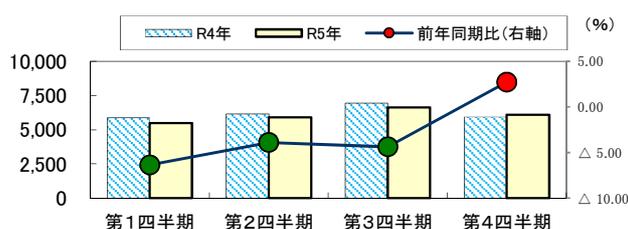


- (3) **雇用保険(基本手当基本分)受給者実人員**は年間平均で6,031人、前年比3.0%減となり、3年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.34に掲載 】

(単位:人、%)

	受給者実人員	前年同期比 前年比
第1四半期	5,484	△ 6.3
第2四半期	5,914	△ 3.9
第3四半期	6,642	△ 4.4
第4四半期	6,083	2.7
R5年	6,031	△ 3.0

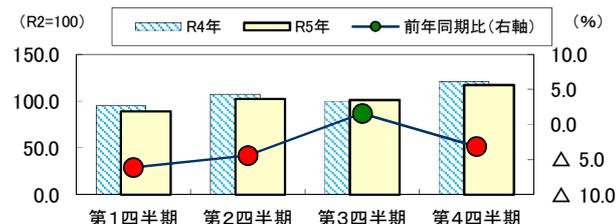


- (4) **現金給与総額指数(事業所規模5人以上)**は102.5、前年比3.0%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	89.1	△ 6.1
第2四半期	102.4	△ 4.4
第3四半期	101.2	1.6
第4四半期	117.1	△ 3.1
R5年	102.5	△ 3.0

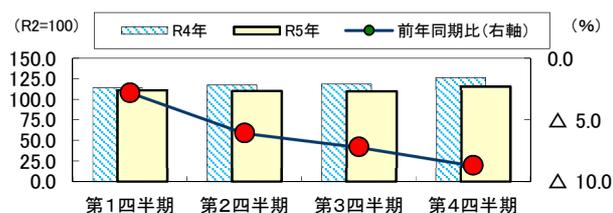


- (5) **所定外労働時間指数(事業所規模5人以上)**は111.7、前年比6.3%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	111.0	△ 2.8
第2四半期	110.3	△ 6.0
第3四半期	109.9	△ 7.2
第4四半期	115.6	△ 8.7
R5年	111.7	△ 6.3

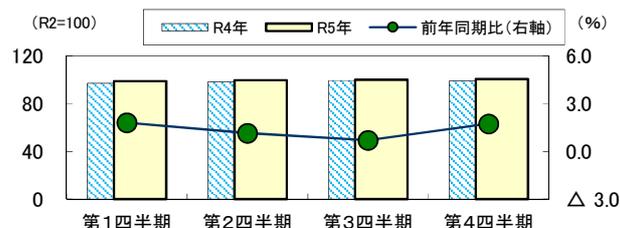


- (6) **常用雇用指数(事業所規模5人以上)**は100.0、前年比1.4%増となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.38に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	99.0	1.8
第2四半期	99.9	1.1
第3四半期	100.2	0.7
第4四半期	100.8	1.8
R5年	100.0	1.4



前年からの
変化方向

物 価

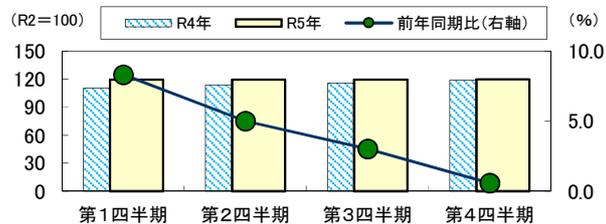
企業物価指数及び消費者物価指数はともに上昇した。

- (1) **国内企業物価指数(総平均)**は119.7、前年比4.2%増となり、
3年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.40に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	119.7	8.3
第2四半期	119.5	5.0
第3四半期	119.6	3.0
第4四半期	119.8	0.6
R5年	119.7	4.2

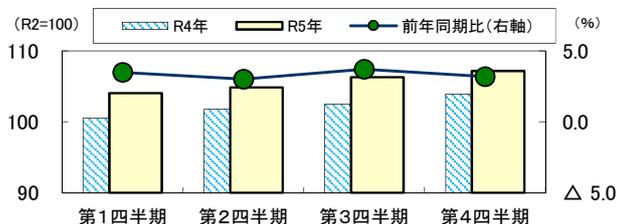


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は105.6、前年比3.3%増となり、
2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.42に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	104.0	3.5
第2四半期	104.8	3.0
第3四半期	106.3	3.7
第4四半期	107.2	3.2
R5年	105.6	3.3



企業・金融

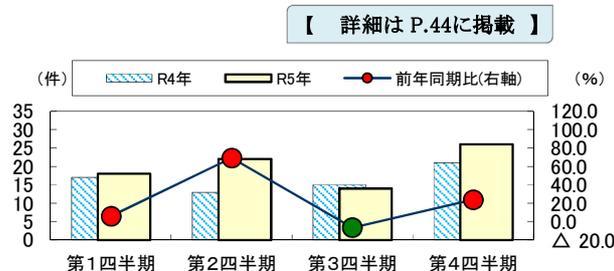


企業倒産の件数及び負債総額はともに前年を上回った。
預金残高及び貸出残高はともに前年を上回った。

- (1) **企業倒産件数**は80件、前年比21.2%増となり、
2年連続で前年を上回った。

(単位:件、%)

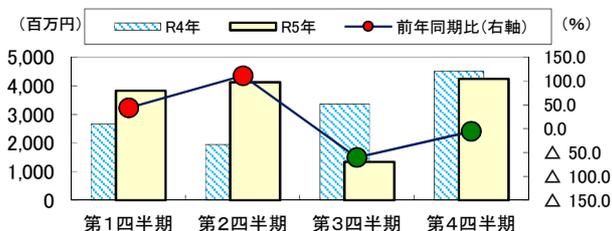
	件数	前年同期比 前年比
第1四半期	18	5.9
第2四半期	22	69.2
第3四半期	14	△ 6.7
第4四半期	26	23.8
R5年	80	21.2



- 企業倒産負債総額**は135億26百万円、前年比8.4%増となり、
3年連続で前年を上回った。

(単位:百万円、%)

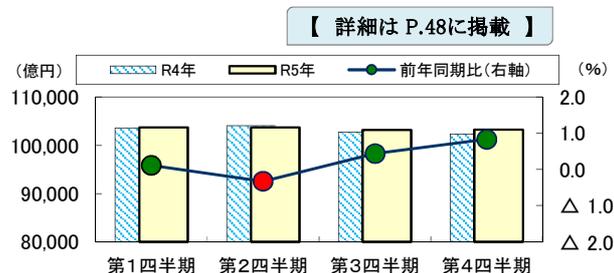
	負債総額	前年同期比 前年比
第1四半期	3,821	43.5
第2四半期	4,118	111.2
第3四半期	1,340	△ 60.3
第4四半期	4,247	△ 5.6
R5年	13,526	8.4



- (2) **金融機関預金残高**は総額10兆3,234億円、前年比0.8%増となり、
2年振りに前年を上回った。

(単位:億円、%)

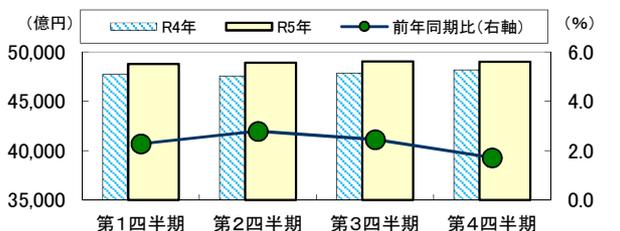
	預金残高	前年同期比 前年比
第1四半期	103,733	0.1
第2四半期	103,710	△ 0.3
第3四半期	103,207	0.4
第4四半期	103,234	0.8
R5年	103,234	0.8



- 金融機関貸出残高**は総額4兆9,005億円、前年比1.7%増となり、
13年連続で前年を上回った。

(単位:億円、%)

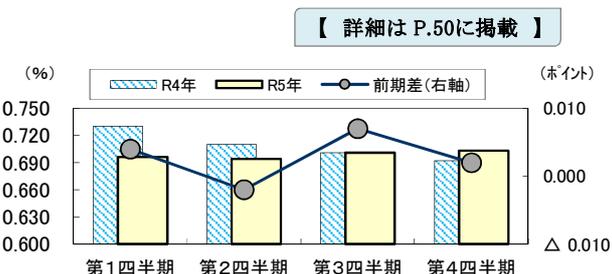
	貸出残高	前年同期比 前年比
第1四半期	48,787	2.3
第2四半期	48,887	2.8
第3四半期	49,031	2.4
第4四半期	49,005	1.7
R5年	49,005	1.7



- (3) **貸出約定平均金利**は地方銀行で0.703%、
前年差0.011ポイント上昇となった。

(単位:%、ポイント)

	金利	前期差 前年差
第1四半期	0.696	0.004
第2四半期	0.694	△ 0.002
第3四半期	0.701	0.007
第4四半期	0.703	0.002
R5年	0.703	0.011



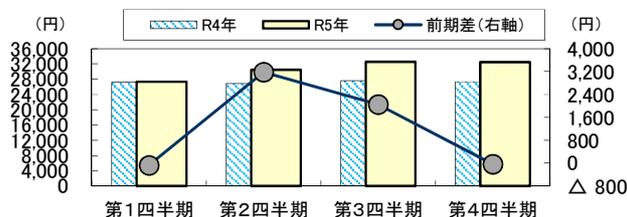
市場

株価は上昇し、円相場は円安となった。

- (1) 日経平均株価(225種、期中平均値)は30,716円56銭、前年差3,458円77銭高となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.52に掲載 】

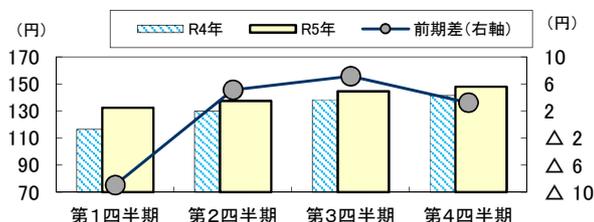
(単位:円)		
	株価	前期差 前年差
第1四半期	27,290.72	△ 71.44
第2四半期	30,468.80	3,178.08
第3四半期	32,517.39	2,048.59
第4四半期	32,478.81	△ 38.58
R5年	30,716.56	3,458.77



- (2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は140円59銭、前年差9円1銭安となり、3年連続で円安となった。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位:円)		
	円相場	前期差 前年差
第1四半期	132.33	△ 8.96
第2四半期	137.43	5.10
第3四半期	144.56	7.13
第4四半期	147.77	3.22
R5年	140.59	9.01



景気動向指数

下降基調で推移した。

- (1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は下降した。

【 詳細は P.54に掲載 】

(単位:ポイント)		
	CI一致指数	前期差 前年差
第1四半期	80.3	△ 4.1
第2四半期	80.1	△ 0.2
第3四半期	79.2	△ 0.9
第4四半期	79.3	0.1
R5年	79.3	△ 5.1

(四半期値及び年値は期末値)

